

# 高齢者福祉施設の消防訓練に関するアンケート調査の分析

辻本研究室

4109054 榊原 菜未

## 1. 研究の背景と目的

1987年に起きた東京都東村山市の特別養護老人ホーム松寿園の悲惨な火災を契機に、スプリンクラーの設置、夜間の人員配置などが義務づけられてきた。しかし、その後も、2006年に長崎のグループホームで入居者7人が、2010年には札幌のグループホームでも入居者7人が死亡した火災が発生し、高齢者福祉施設で死傷者が発生する火災が後を絶たない。

本研究では、東京都における高齢者福祉施設を対象とし、防火対策の現状をアンケートを通じて調べ、施設の階数との関係性について検討を行った。

## 2. 研究の方法

2つの高齢者福祉施設で自衛消防訓練の状況を把握し、東京都社会福祉協議会に参加している88の施設を対象にアンケート調査の結果を分析した。

## 3. アンケート対象施設での訓練事例

### 3.1 目的

アンケート調査を行うにあたって対象となる高齢者福祉施設で実際、どのような訓練が行われているのかを把握する。(表-1)

表-1 見学先の施設概要

	施設A	施設B
施設の種類	認知症高齢者グループホーム	特別養護老人ホーム
開設年	平成21年	平成17年
入居者数	18名(要介護度平均 2.6)	56名(要介護度平均 4.2)
職員数	昼間:6人 夜間:2人	昼間:37人 夜間:5人
建物の概要	延べ床面積 671.83㎡ 鉄骨造2階建て	延べ床面積 2895.19㎡ 鉄筋コンクリート造3階建て

### 3.2 訓練内容

施設Aでは、入居者がリビングダイニングにいる状態で、2階のキッチンより出火する想定であった。訓練参加者は職員4名で、うち2人が入居者役を務めていた。入居者役の職員を2階から階段を利用し、地上へ避難誘導していた。施設Bでは2階のキッチンからの出火を想定し、同ユニットの入居者10名を、隣接するユニットへ避難誘導していた。

### 3.3 問題点

施設Aの訓練では、出火から避難終了まで5分47秒だが、避難させたのは、入居者役の職員2人だけなので、入居者全員を避難させるには、より多くの時間がかかると予測できる。施設Bでは、16分50秒かかっていた。一般的な高齢者福祉施設の避難限界時間の目安は6分であり、両施設ともに大幅に避難限界時間を超えていると言える。施設Aでは階段が、施設Bでは居室の家具が障害となり避難誘導に時間がかかっていた。

訓練中では、排煙窓が使用されていない、防火扉が閉まらないといった設備が上手く使用できていない点が目立った。その他、避難終了後に入居者の人数確認がされていない、出火点として想定した場所を通るといった問題点もあった。

## 4. アンケート調査

### 4.1 目的

火災発生時の避難において施設が抱えている問題を明らかにする。

### 4.2 方法

特定非営利活動法人日本防火技術者協会(註1.)が行った「高齢者福祉施設の防災訓練に関する調査」の結果を利用した。配布先は、特定非営利活動法人日本防火技術者協会主催の研修会参加者と表-1の施設職員の全部で88件である。配布先の施設の種類の、特別養護老人ホームが80件、養護老人ホーム5件、軽費老人ホームと認知症高齢者グループホームとデイサービスセンターがそれぞれ1件である。

### 4.3 アンケートの内容

施設に関するアンケートAと消防訓練に関するアンケートBの2種類がある。(表-2)

表-2 アンケート概要

	アンケートA	アンケートB
対象	東京都社会福祉協議会に参加している高齢者福祉施設	
配布先	研修会参加者と見学先施設(全88件)	
回収率	85%(75件)	77%(68件)
内容	I施設について(18項目)/IIアンケートの回答者について(17項目)/III救助消火の容易性について(4項目)/IV火災安全体制について(19項目)/V初期段階における火災の拡大の遅延について(11項目)/VI類焼防止について(4項目)/VII在館者の避難安全について(41項目)/VIII煙や火炎への対応について(14項目)/IX日常管理について(25項目)	I勤務先施設について(2項目)/IIアンケートの回答者について(10項目)/III勤務施設での防火・避難について(17項目)

### 4.4 結果

#### 4.4.1 アンケートの回答者・施設について

各アンケートの回答者の属性を示す。(表-3)

表-3 アンケートの回答者の属性

	アンケートA	アンケートB
施設責任者兼防火管理者・責任者	7人(9%)	4人(6%)
施設責任者	6人(8%)	3人(4%)
防火管理者・責任者	37人(50%)	27人(40%)
施設職員	21人(28%)	34人(50%)
その他	3人(4%)	-
空欄	1人(1%)	-

回答していただいた施設について、建物の階数・そのうち居室として利用している階数・入居者数・入居者の介護度平均・昼間の職員数・夜間の職員数について示す。(図-1) 平均要介護度は3.9(註2.)である。昼間の職員一人あたりの入居者数は1.9人であるのに対し、夜間の職員一人あたりの入居者数は15人であった。

#### 4.4.2 避難訓練について

3.3で挙げた訓練の問題点のうち、家具が避難誘導の障害になっていた・防火扉が閉まらなかった・避難後の人数確認がされていないといった3点について、関連する質問の回答結果を示す。(表-4) VII-4-2とVIII-2-8からは、90%以上の施設で避難誘導できるように室内に障害物が放置されておらず、戸の閉鎖を妨げるものが置かれていない状態と回答しているが施設Bでの例から疑問である。IX-13-1からは17%の施設で、避難後に利用者や職員の人数の確認方法が決められていないとしていて、認識不足をうかがわせる。

## 4.5 施設の階数とアンケート結果の関係

### 4.5.1 消防設備・避難器具の設置状況

消防設備や避難器具は設置率が高いものが多く、設置の有無で比較検討できないので、設置率が90%以下の消防設備や避難器具について施設の階数と設置状況を検討した。その中で法的に設置が義務付けられていない電子解錠システムについては、2階建て以下の施設では、全く設置されていないが、3階建て以上では施設の階数によらず、全体の3分の2が設置していて、防災意識の差が設置の有無に反映している可能性がある。(図-2)

### 4.5.2 電子解錠システム設置の有無と防災意識の関係

3階建て以上の施設について、アンケートAの日常管理に関する結果を、電子解錠システム設置の有無で分けてまとめた。(図-3) IX-6、IX-13-1、IX-16では電子解錠システムが設置してある施設の方が「はい」の割合が多くなったが、IX-11、IX-13-3では「いいえ」の方が多くなった。

## 5. まとめ

- ・実際に自衛消防訓練を見学した施設の状況とアンケートの調査の結果は、異なっている
- ・施設の階数とアンケートの結果の関係については、電子解錠システムの設置状況の有無で特徴を検証したがアンケートの日常管理の差に反映しているとは、言い切れない

## 脚注

註1. 特定非営利活動法人日本防火技術者協会  
(<http://www.jafpe.or.jp/>)

註2. 要介護4とは動作能力が低下し、介護なしには日常生活を営むことが困難となる状態。

厚生労働省一要介護度認定

([http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/hukushi\\_kaigo/kaigo\\_koureisha/nintei/index.html](http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/nintei/index.html))

## 参考文献

- 1) 近代消防 2011年06月号 もし火災が発生したら～福祉施設火災における職員の対応～
- 2) 戸張 彩香：東京都における認知症高齢者グループホームの現状と防火対策に関する研究，2012

IX-6.非常時の職員の役割分担及びマニュアルが整備されており、定期的に適正になるよう見直しを実施していますか				
	はい	いいえ		
設置	89%	11%	(n=63)	
未設置	63%	37%		
IX-11.近隣の福祉施設と共同で合同防災訓練を行っていますか				
	はい	いいえ	近隣に施設がない	無回答
設置	25%	68%	5%	2%
未設置	32%	63%	5%	0%
(n=63)				
IX-13-1.利用者や職員が全員そろっていることの確認方法は決めていますか				
	はい	いいえ	無回答	
設置	82%	18%	0%	
未設置	79%	16%	5%	
(n=63)				
IX-13-3.火災時、公園や道路などの一時避難場所が決められていますか				
	はい	いいえ	無回答	
設置	64%	34%	2%	
未設置	79%	21%	0%	
(n=63)				
IX-16.自力での避難が困難な入所者の居室入口には、介助避難の表示の有無及び対応職員の明示を行っていますか				
	はい	いいえ		
設置	41%	59%	(n=63)	
未設置	32%	68%		

図-3 電子解錠システムの有無によるアンケート結果の比較

表-4 訓練の問題点に関連するアンケート結果

質問内容	はい	いいえ	空欄
VII-4-1. 職員が迅速に居室に入って避難誘導・救助できるように、室内に障害物が放置されないようになっていますか	97%	2%	1%
VIII-2-8. 設置されている戸の閉鎖を妨げるものが置かれなくなっていますか	93%	5%	2%
IX-13-1. (避難後の)利用者や職員が全員そろっていることの確認方法は決めていますか	81%	17%	2%

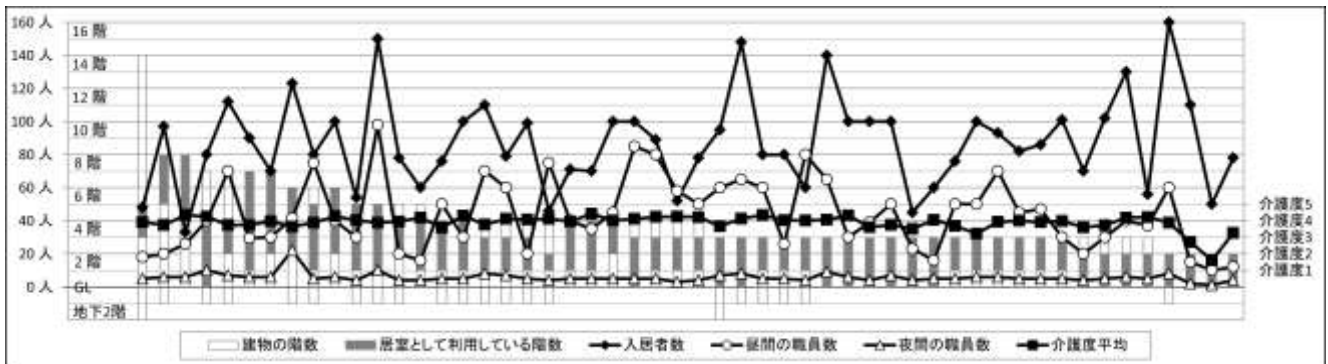


図-1 アンケート回答者の施設

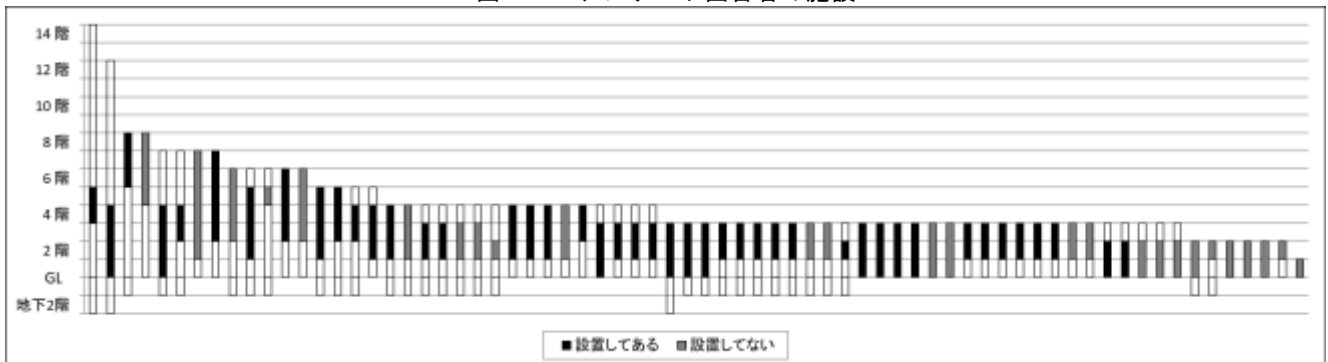


図-2 電子解錠システムの設置状況